

黒川夏の学校

## ヒマワリの花を描く

黒川理科研究会 永沢義人

### 1 指導者がヒマワリと親しむ

私が油絵を25年習っているのですが夏になると毎年ヒマワリを描いてきています。それで、我が家の畑も広いのでヒマワリを育てはじめました。はたけに植えたヒマワリは元気よく成育しました。

今年もヒマワリはすごく大きくなり3メートル50センチぐらいになりました。大きい花が次から次とさいています。

### 2 ヒマワリの花は真ん中の心のところを丸く描き、その丸のまわりに花びらをかけばいいので花はかきやすいのです。

ヒマワリの大きい葉を画面のなかに花とどう書くかというのはかなりむずかしいのですが。

### 3 書く前に子どもたちはどうかけばいいかと迷っているのですから

花をいくつどこにかくか決めましょう。

花びらは何本くらいかくかなとか

葉をどこに描くか

など構図について少しはなしをします。

### 4 描き始めたら 早くとりかかった子ども達の作品を

こどもの前にかかげて 良いところを説明する。

どう書いたら考えて居る子の参考になる。

### 5 子どもがかいているときは子どもの間をまわって

子どもがどのように絵をつくっているか

よく見てまわる。

どう描いたらいいか迷っている子の相談にあたる。

(絵の指導で一番大事なのです。指導者のおしつけはだめ)

### 6 できあがったと思う子から 黒板に掲示をする。

### 7 全員ができあがったら

1枚 1枚 その絵のよさを はなしてやる。

日本のスポーツでもなんでも 欠点をさがすことからはじまるのです。それが絵画教育をこわしているのです。

子どもの描いた絵には

必ず 良いところがひとつは必ずあるのです。

子どもの絵を持って いいところは なにかな、どこかなと見る。

私たちを 子どもたちの絵のよさをみつけるのです。